

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4060422号
(P4060422)

(45) 発行日 平成20年3月12日(2008.3.12)

(24) 登録日 平成19年12月28日(2007.12.28)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 7 F 7/00 (2006.01)

A 4 7 F 7/00 G

A 4 7 F 5/10 (2006.01)

A 4 7 F 5/10 C

請求項の数 3 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平9-368501
 (22) 出願日 平成9年12月30日(1997.12.30)
 (65) 公開番号 特開平11-192141
 (43) 公開日 平成11年7月21日(1999.7.21)
 審査請求日 平成16年12月6日(2004.12.6)

(73) 特許権者 000222347
 タテヤマアドバンス株式会社
 富山県高岡市早川70番地
 (74) 代理人 100090206
 弁理士 宮田 信道
 (72) 発明者 加藤 潔
 富山県高岡市早川550番地 立山アルミ
 ニウム工業株式会社内
 審査官 稲村 正義

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 新聞販売什器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持台10に第1ラック20と第2ラック30を装着して、各ラック20、30内に新聞を配置する新聞販売什器であって、

第1ラック20と第2ラック30は、階段状に配置した複数のラックから形成してあり

第1ラック20は、支持台10の前面に着脱自在であり、第2ラック20は、その前側下端38を支持台10の上部背面15に着脱自在としてあり、

第1ラック20と第2ラック30は、支持台10に対して前面側から背面側に上向きに連続する階段状に取り付けてあることを特徴とする新聞販売什器。

【請求項2】

支持台10は、間隔をおいて配置する左右の柱12、12と両柱12、12の下端から前側に各々延出した両脚11、11からL字型に形成してあり、両柱12、12の前面と、両脚11、11の上面と、第1ラック20の下面との間に第2ラック30の収納部10aを形成してあることを特徴とする請求項1記載の新聞販売什器。

【請求項3】

支持台10の背面には、左右の柱12、12と両柱12、12の間に架設した上枠15及び下枠16とで囲んだ開口部40を有していると共に、その開口部40の幅及び高さは、第2ラック30の幅及び高さよりも広く形成してあることを特徴とする請求項2記載の新聞販売什器。

10

20

【発明の詳細な説明】**【 0 0 0 1 】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、コンビニ、駅売店等で用いられる新聞販売什器に関する。

【 0 0 0 2 】**【従来の技術】**

新聞販売什器は、コンビニエンスストア、駅売店等で日刊新聞、週間新聞等の販売用として配置されるが、現在用いられている新聞販売什器は床に配置される支持台に新聞を配置するラックが固定されている形式のものである。

日刊紙を配置するラックは、毎日利用されるため問題はないが、週間新聞、例えば競馬新聞、つり新聞、囲碁新聞などは発行日が限られるため、発行されない日はその棚が空いてしまい、店の利用上好ましくない状況にある。

また、店員の側から見ても空いているラックをそのままにしておくことは販売作業上、例えば、商品の手渡し、現金の受渡しにおいて邪魔になるという問題がある。

【 0 0 0 3 】**【発明が解決しようとする課題】**

したがって、本発明の課題は、上記従来技の不具合を解消することにより、新聞販売什器において、不必要なラックを取り外し可能とすることにより、販売員の作業を容易にすることと、店の空間利用を効率化することを第1の課題とする。

更に、本発明は第2ラックと使用しないときに、第2ラックの収納場所を邪魔にならない位置に確保して売場空間の有効利用を図ることを第2の課題とする。

【 0 0 0 4 】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために、請求項1記載の新聞販売什器は、支持台に第1ラックと第2ラックを装着して、各ラック内に新聞を配置する新聞販売什器であって、第1ラックと第2ラックは、階段状に配置した複数のラックから形成してあり、第1ラックは、支持台の前面に着脱自在であり、第2ラックは、その前側下端を支持台の上部背面に着脱自在としてあり、第1ラックと第2ラックは、支持台に対して前面側から背面側に上向きに連続する階段状に取り付けてあることを特徴とする。また請求項2記載の新聞販売什器では、支持台は、間隔をおいて配置する左右の柱と両柱の下端から前側に各々延出した両脚からL字型に形成してあり、両柱の前面と、両脚の上面と、第1ラックの下面との間に第2ラックの収納部を形成してあることを特徴とする。請求項3記載の新聞販売什器は、支持台の背面には、左右の柱と両柱の間に架設した上枠及び下枠とで囲んだ開口部を有していると共に、その開口部の幅及び高さは、第2ラックの幅及び高さよりも広く形成してある。

【 0 0 0 5 】**【発明の実施の態様】**

本発明の実施例を添付した図面に従って説明する。

発明の実施例に係る新聞販売什器は、大別して、支持台10、第1ラック20及び第2ラック30の部分から成る。

支持台10は、図2、3及び図5に示すように、左右の脚11、11及び柱12、12とからなり側面視L字型に形成する。各脚11、11は水平に配置し、下方にはキャスト受け13、13を介して移動用のキャスト14、14が設けてある。各脚11、11のそれぞれの側には柱12、12を垂直に立設し、両柱12、12間には、上枠15と下枠16とを架設し、もって、両柱12、12は上枠15と下枠16とによって一体に形成する。

【 0 0 0 6 】

脚11、11の他端側は脚キャップ17、17を設け、脚11、11の端部を塞いでいる。各柱12は水平断面長方形に形成し、その4つの側面の内、脚11の延出側面に上下に亘って、多数の長方形の係止スリット18・・・が等間隔で穿設してある。また、各柱12の上端には柱キャップ19を嵌合する。

通常、上記支持台 10 の脚 11 及び柱 12 は、全体としてアルミ合金を素材とし、キャップは ABS 樹脂等で形成するが他の素材を用いても良い。

【0007】

第 1 ラック 20 は主として日刊新聞を配置するもので、図 4 に示すように全体として塗装又は樹脂コーティングした金属丸棒を素材として直方体のカゴ状に形成する。実施例では横方向に長い長方形形状のカゴ網体からなり、4 段ラック 21 ~ 24 として形成し、それぞれ 3 つの部分に区分してある。4 段の各ラック 21 ~ 24 は、横丸棒 25、縦丸棒 26、支持丸棒 27 及び区分丸棒 28 とからなり、階段状に一体に形成する。

【0008】

また、最下部の一段目のラック 21 の下部と最上部の 4 段目のラック 24 の下部との間には、それらの両側部に取付枠体 29、29 を付設する。該取付枠体 29、29 は、支持台 10 の脚 11 の上面及び柱 12 の側面に沿って取り付けられるものであり、従ってそれらの形状と略同一の L 字型に形成する。

そして、取付枠体 29、29 の鉛直枠 29b 側には前記上枠 15、及び下枠 16 に係合する係止片 29c、29c を取り付け。従って、水平枠 29a を脚 11 上に載置した状態で、この係止片 29c、29c を上枠 15 及び下枠 16 に係止することで支持台 10 に第 1 ラック 20 を一体的に装着させることができる。第 1 ラック 20 の各段のラック 21 ~ 24 には多くの種類の折り畳んだ日刊紙を重ね合わせて配置する。なお、各水平枠 29a には、クッション材 29、29 を付設し第 1 ラック 20 の支持を安定させている。

【0009】

支持台 10 の上部には、第 2 ラック 30 を必要に応じて取り付け。第 2 ラック 30 は基本的には第 1 ラック 20 と同一構成である。しかし、通常日刊紙より頁数が少なく、かつ紙面も小型であるため、全体として小型に形成する。

しかしながら、階段状の 4 段のラック 31 ~ 34 で形成されていること、各ラックは横丸棒 35、縦丸棒 36 及び支持丸棒 37 により形成する点は、第 1 ラック 20 と同じである。但し、区分丸棒は設けていない。

第 2 ラック 30 には、第 1 ラック 20 と同様に支持台 10 に取り付けのための係止片 38、39 を設ける。即ち、第 3 図に示すように、第 1 段目のラック 31 の下面には第 1 係止片 38 を、第 4 段目のラック 34 の下面には第 2 係止片 39 をそれぞれ取り付ける。

【0010】

両係止片 38、39 共、下方に突出部をもつ逆 L 型アングル材で形成する。そして、図 3、4 図に示すように、支持台 10 の上部に装着するときは、第 1 係止片 38 を上枠 14 に係合させる。この状態において週刊紙等を配置することができる。

第 2 ラック 30 を必要としないときは、図 2 に示すように第 2 ラック 30 を上枠 15 から取り外して矢印に示すように移動させ、図 3 に示すように、第 2 係止片 39 を下枠 16 に係止することによって支持台 10 に収納することになる。支持台 10 に収納されている第 2 ラック 30 を取り出すときは、上記の手順とは逆の操作をすればよい。

【0011】

上記実施例の新聞販売什器によれば、支持台に対して日刊紙用の第 1 ラック 20 と競馬新聞等の週刊紙用の第 2 のラック 30 を支持台 10 に対して着脱自在としたことで、不必要なラックを取り外すことができ、狭い店内空間が利用し易くなり、店員も商品の受け渡し等が容易になる。

支持台 10 には第 2 ラックの不使用时の収納部を設けたことにより、取り外した第 2 ラックが邪魔になるという不都合はない。第 2 ラックには仕切が設けてないから、週刊誌の種類が多少増減しても適宜の部数を配置することができる。

また、支持台 10 にはキャストを設けたことから、狭い店内から新聞販売什器全体を移動させることができ、ラックに新聞を多層に積み重ねる作業を広い空間ですることができ作業を効率化することができる。

なお、本発明は上記実施例に限定されることない。例えば、支持台は店の立上り壁でもよく、天井から吊り下げた支持体であってもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 2 】

ラックの段数は適宜選択できるものとし、各段のラックの形は直方体にとらわれることなく、例えば、水平断面長楕円形状等であってもよい。また、ラックは金属丸棒に依らず、合成樹脂棒、金属ネット等により形成してしても良い。

更に、上記実施例では、第2ラックは不要時に取り外して第1ラックの下方に収納するようにしたが、取り外すことなく、第2ラックの下端部近傍において支持台10に軸着しておき、単に回転させるだけで第1ラックの下方に収納するようにしてもよい。

なお、特許請求の範囲には図面符号を付したが、本発明はこれに限定されるものではない。

【 0 0 1 3 】

10

【発明の効果】

本発明は、上記構成により下記の効果を奏する。1．請求項1に記載の発明によれば、不必要なラックを取り外すことができるから、店内の空間を有効利用でき、店員が作業し易くなり、空きラックもないから商品のレイアウト上好ましい。2．請求項2に記載の発明によれば、第2ラックの収納部を設けることによって取り外した第2ラックが店員の作業に邪魔になるという不都合はない。3．請求項3に記載の発明によれば、支持台の背面にある開口部から第2ラックを収納部に入れられるので、第2ラックが不要なときには、支持台に第1ラックを取り付けたまま収納部に片付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例の概略斜視図。

20

【図2】同実施例の全体の部分斜視図

【図3】同実施例の側面図。

【図4】同実施例の正面図。

【図5】同実施例の支持台の側面図。

【図6】同実施例の支持台の正面図。

【図7】図6 A - A線の断面図。

【図8】同実施例の第1ラックの側面図。

【図9】同実施例の第2ラックの側面図。

【符号の説明】

10・・・支持台

30

11・・・脚

12・・・柱

13・・・キャスト受け

14・・・キャスト

15・・・上枠

16・・・下枠

17・・・脚キャップ

18・・・係止スリット

19・・・柱キャップ

20・・・第1ラック（日刊紙ラック）

40

21・・・1段目のラック

22・・・2段目のラック

23・・・3段目のラック

24・・・4段目のラック

25・・・横丸棒

26・・・縦丸棒

27・・・支持丸棒

28・・・区分丸棒

29・・・取付枠体

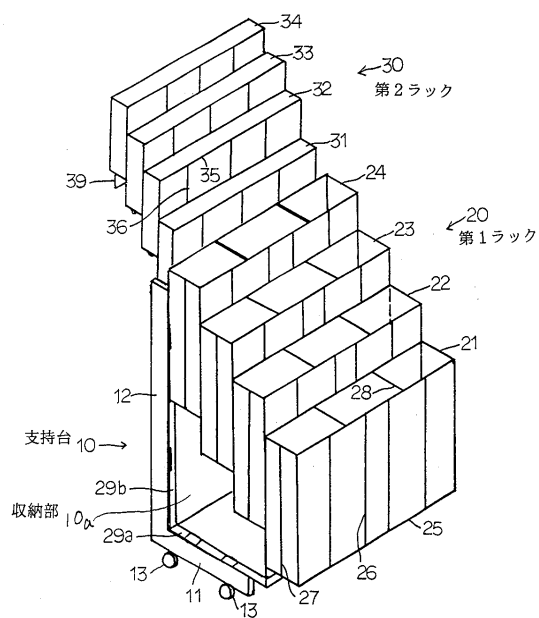
29a・・・水平枠

50

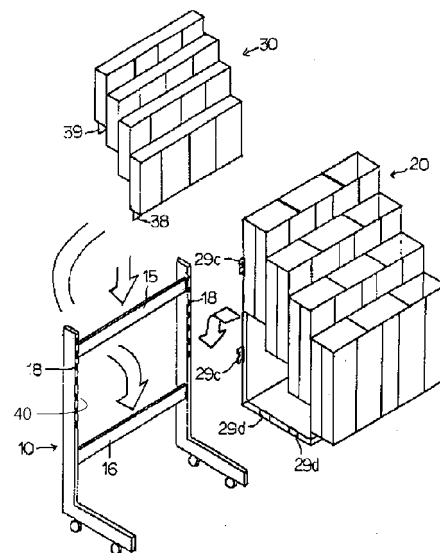
- 29b・・・鉛直棒
- 29c・・・係止片
- 29d・・・クッション材
- 30・・・第2ラック（週刊紙ラック）
- 31・・・第1段のラック
- 32・・・第2段のラック
- 33・・・第3段のラック
- 34・・・第4段のラック
- 35・・・横丸棒
- 36・・・縦丸棒
- 37・・・支持丸棒
- 38・・・第1係止片
- 39・・・第2係止片

10

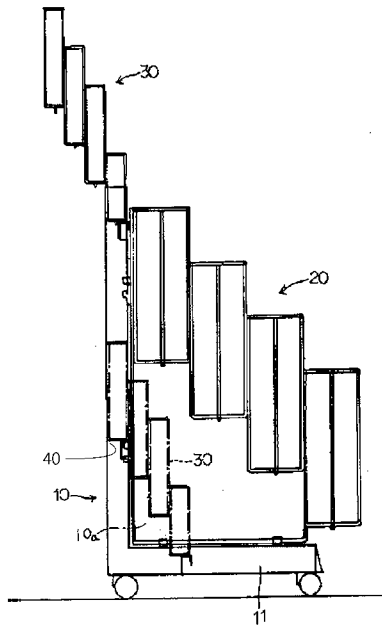
【図1】



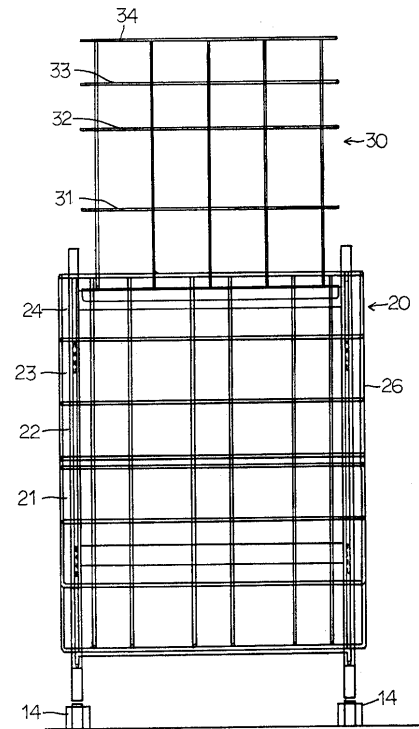
【図2】



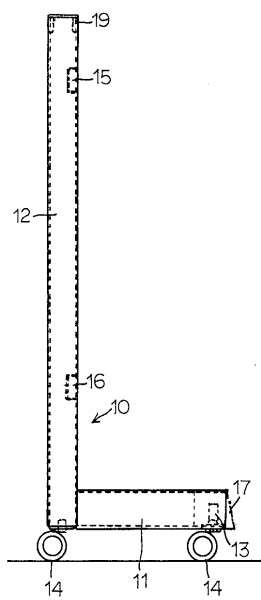
【図 3】



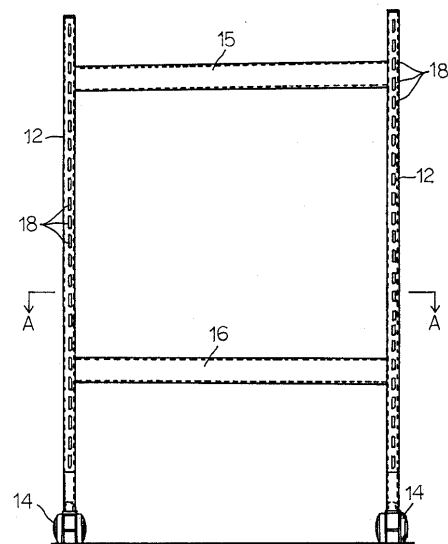
【図 4】



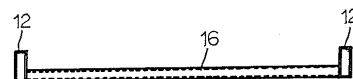
【図 5】



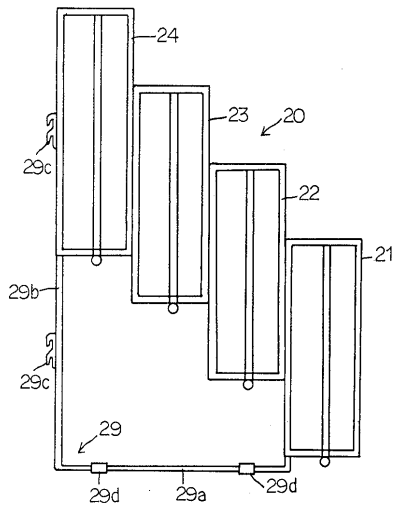
【図 6】



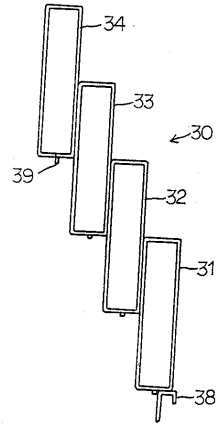
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平08-256886(JP,A)
特開平09-135758(JP,A)
実開平01-067960(JP,U)
実開平05-088368(JP,U)
実開平06-038737(JP,U)
実開平07-013253(JP,U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47F 5/00-7/30